

令和2年度 第2回 屋久島世界遺産地域科学委員会  
議事要旨

日時：令和3年2月10日（金） 9:00～12:00

場所：Web 会議方式

●議事(1) 前回会議の議論の整理について(確認)

- ・質疑なし

●議事(2) 屋久島世界遺産地域管理計画の実施状況について(報告及び意見聴取)

- ・昨年度と比較すると、今年度の携帯トイレ携行率の変動は少ないが、携帯トイレの使用率（全体に対する使用人数の割合及び携行人数に対する使用人数の割合）が非常に低かった理由は何か。（土屋委員）
- ・今年度からの質問項目である「今後の携帯トイレ利用の是非」についてはどのような結果だったのか。（柴崎委員）
- ・トイレがあるから使う（携帯トイレを使わない）という傾向が強いと感じたが、その場合、環境に大きな負荷をかける可能性が一番高いのはトイレのある避難小屋に泊まる方々。問題解決のためには、今後、こうした宿泊客に対するサービスをどうするかが重要と考える。（柴崎委員）
- ・天然杉の現状把握調査では、モミ・ツガはスギと区別できるのか。モミやツガも非常に老齢になっているので、これらについても調べたら面白いと思う。（鈴木委員）

●議事(3) 令和3年度屋久島世界遺産地域モニタリング調査等計画について(報告及び意見聴取)

- ・質疑無し

●議事(4) 令和2年度屋久島世界遺産地域科学委員会ヤクシカ・ワーキンググループ及び特定鳥獣保護管理検討委員会合同会議について(報告)

- ・質疑無し

●議事(5) 屋久島世界遺産地域管理計画の見直しについて(報告及び意見聴取)

<体制について>

- ・地域連絡会議の構成機関・団体は、別紙でなく直接書き込んで良いのではないかと。（松田委員）
- ・霊験、霊祭の場であることが屋久島の重要な特徴の一つであるため、地域連絡会議の構成メンバーには、岳参り関係者も入れた方が良かったのではないかと。（土屋委員）
- ・地域連絡会議の構成が観光事業者中心となっていることを懸念。安全上のリスクを考えると、警察署や遭難対策関係者は入れた方が良く、非観光業の方々（林業関係者等）の意見も反映できる構成にした方が良い。（柴崎委員）
- ・屋久島にはスギ人工林が1万haあることから、地域連絡会議や管理計画には林業関係者や木工業に携わる方などの意見も取り入れられる形を望む。（寺岡委員）
- ・地域連絡会議の中に地元関係者（大山さん、日下田さん、中川さん）が入ることについて、地域連絡

会議会則の関係機関・団体一覧に明記されるのか。(柴崎委員)

- ・地域連絡会議のオブザーバーとして科学委員会委員長とあるが、オブザーバーの位置付けを説明してほしい。(土屋委員)
- ・科学委員会の委員を地域連絡会議の構成員とすることには反対。科学委員会とは助言機関であり、決めるのは構成員の地元の方。責任を取ることができない立場である科学委員だけが反対して、事が進まないなどという事態は避けるべき。(松田委員)
- ・今回の部会は拡大する地域連絡会議の作業部会という意味合いが強く、科学委員会を含めてじっくり議論する場にはなっていない。科学委員会の委員等による専門的な知見のインプットも同様に大事であるため、作業部会とは別に十分な議論をする場を設けることが必要ではないか。10月から開始する作業部会に科学委員会として提言するためには、10月以前に管理計画について科学委員会で議論する時間を確保してほしい。(土屋委員)
- ・作業部会について、希望する委員がいれば、科学委員会と繋ぐ役割という意味でもオブザーバーとして意見を聞くことを認めてもらいたい。また、構成メンバーが観光事業体に偏っており、安全や精神的な繋がりを考える主体が抜けているため、もう少し広い視点からメンバー構成を考えた方が良い。(柴崎委員)
- ・屋久島の世界遺産を構成する、或いは支える要素としては、登録時に認められた価値以外の人間活動の関わり(江戸時代の伐採、岳参りなど)が大きく、これらを屋久島独自のものとして管理計画に位置付けていくことは大変重要であり、期待している。(日下田委員)

#### <管理計画の改定の視点について>

- ・屋久島も小笠原のように管理区域を設けるやり方が良いのではないかと。ユネスコエコパークでは、全島が対象であり、里地は移行地域(持続可能な社会のモデルになる地域)と整理していることから、管理区域を全島に拡大するという事はあっても良いと思う。(松田委員)
- ・世界遺産的な考え方(出来るだけ自然の状態を残していく)とユネスコエコパーク的な考え方(利用しながら守っていく)をどのように調和させてエリア設定し、管理していくかについて、行政の方針が明確でないことが大きな問題点だと思っている。今後の世界遺産地域のエリア設定の改定も念頭に置き、屋久島全体としてどう考えていくかを行政側から出すことがポイントで、その出し方を科学委員会から助言する流れが必要。(矢原委員長)
- ・遺産地域の外側にバッファーを設けて登録地を守るとすれば、ユネスコエコパークのやり方と矛盾しない。ユネスコエコパークの移行地域も含めた形で管理計画を作っていくことは可能だと考える。(松田委員)
- ・ユネスコエコパークと世界遺産をリンクさせるやり方はあるが非常に懐疑的。管理計画改定までの期間が短いため無理に作ると地域との軋轢を生む恐れもあるため、結果的に前回のマイナーな変更になる可能性もある。無理にユネスコエコパークに合わせる必要はない。(柴崎委員)
- ・小笠原のように、世界遺産地域やユネスコエコパークの枠組みはそのまま、世界遺産地域管理計画ではそれらを前提にしながら全島について議論し、計画を作ることは十分可能と考える。(土屋委員)
- ・世界遺産に対する島民の考え方を関係機関で改めて把握する必要があると感じる。(下川委員)
- ・屋久島では、世界遺産がどういうものか住民にほとんど理解されないまま登録されたが、30年たった

現在もどこまで理解されているのかは疑問。管理計画の検討体制を見ても行政機関の様相が強く、理論だけで話がまとまってしまうとなかなか地元に着しない。いかに住民からの意見を引き上げるかについて、行政もいろいろなやりかたを考えて欲しい。(大山委員)

- ・15年前に実施した地元住民対象としたアンケートやワークショップでは、世界遺産に登録されたことで島民の誇りが増したといった意見があった一方で、観光に対する批判的な意見が多かった。観光業が基幹産業となった現在、観光に対する批判的な意見が減っている可能性もあり、調査するのも一つの案である。(柴崎委員)
- ・外発的な価値観の導入(世界遺産やユネスコエコパーク)が、元来地域にあった屋久島らしさを失わせている可能性がある。現在は、屋久島は世界遺産だから素晴らしいという認識を、子供達をはじめ、かつては批判的であった人たちが持ち始めている。刷り込み型の見かけ上の内発的な発展の計画にならないよう気を付けなければならない。(柴崎委員)
- ・世界制度を地元のために使いこなす視点が重要。奄美遺産という言い方が参考になる。(松田委員)
- ・屋久島は世界遺産やエコパークという世界と繋がる制度の登録地なので、積極的に屋久島の良さを世界に発信していくという視点も高校生等に持ってもらうと良い。水力で相当な電力を賄い、自活できていることは世界に誇れる部分。屋久島を見直す材料として使っていくのも良い。(矢原委員長)
- ・IUCNで3年に一度見直しているOutlookの3年後の見直しに向け、科学委員会の委員間で議論する時間を取り、科学委員会から英文でメッセージを何らかの形で出すことを検討すべき。(矢原委員長)

#### ●議事(6)令和2年度屋久島世界自然遺産地域における高層湿原保全対策検討会について(報告)

- ・来年度モニタリング調査にある湿原形状調査と木道下調査とは具体的に何をするのか。(柴崎委員)
- ・植生群落の変化が自然のプロセスなのか、人為的な影響なのかは、今後レクリエーション利用を考える上で参考になる。最終的な報告で教えて欲しい。(柴崎委員)
- ・現状の湿原が自然状態として本来ずっと続くものでないという可能性もあるので、何の説明もなく保全対策をすることに合意することは危険。放置するという選択肢はないのか。(松田委員)
- ・地層の調査からも、湿地ができて以来ずっと継続してきたわけではなく、一時的な浸食プロセスを繰り返して湿地が成長してきたことは間違いない。放置することも一つの手だが、個人的な意見として、木道を知床のような高い木道にしてもう少し元の自然の環境に近い状態に近づけるのも一つの手ではないかと考えている。(井村委員)
- ・9月に花之江河で現地調査を行っていたとき、非常に強い降雨となった。そのとき、多量の水が木道に沿って両側から木道の真ん中あたりに集まり、非常に速い流速で湿原に流れ込む様子を見て、直感的に木道の影響がそれなりにあると感じた。保全対策を考えるにあたっては、木道が全体的な流路形成にどのような影響を与えるのかが重要な事項と思っている。(下川委員)
- ・ハバメメシジミについては、小花之江河で局所的な浸食が木道下で起こっており、土砂が生息地へ供給され、厳しい環境になりつつあると思う。関係機関で応急的な手当が望ましいと本検討会で議論した。(下川委員)
- ・木道下の流れについて、木道の水面下部分が腐朽して深部浸透が進む等の可能性があるか。(柴崎委員)
- ・大雨時でも湿原内での滞留時間は短く、腐朽するほどではないと思われる。(下川委員)

●議事(7)令和2年度屋久島世界自然遺産・国立公園における山岳部利用のあり方検討会について(意見聴取)

- ・合意事項についてもう一度検討が必要なが出てきている。本年度第2回検討会で、全ての項目で合意を得ることは難しく、今後どうしていくか改めて検討しなければならない状況。(土屋委員)
- ・世界遺産地域管理計画への反映が本検討会の重要な役割の一つ。管理計画策定作業部会に対して何らかの形で本検討会の構成員の一部が参画できるような形が重要ではないかと思っている。(土屋委員)

●議事(8)その他、屋久島の観光利用の状況について(意見聴取)

- ・質疑なし